

# 川中島の戦い

## 一資料編一



3年B組

鈴木順夫



第一次から第五次にかけて、川中島合戦が行なわれた時期には武田家の勢力圏は徐々に北上し、川中島はどちらかという武田領になっていた。しかし、上杉謙信が侵攻してくると、武田家は川中島以北の勢力を維持できなかった。川中島合戦はそのつど両軍が対峙した位置は変わっているが、ほとんどが犀川と千曲川の川原に広がる平野部で戦われている。

図1 (激闘川中島より) 5度の戦いが行われた場所

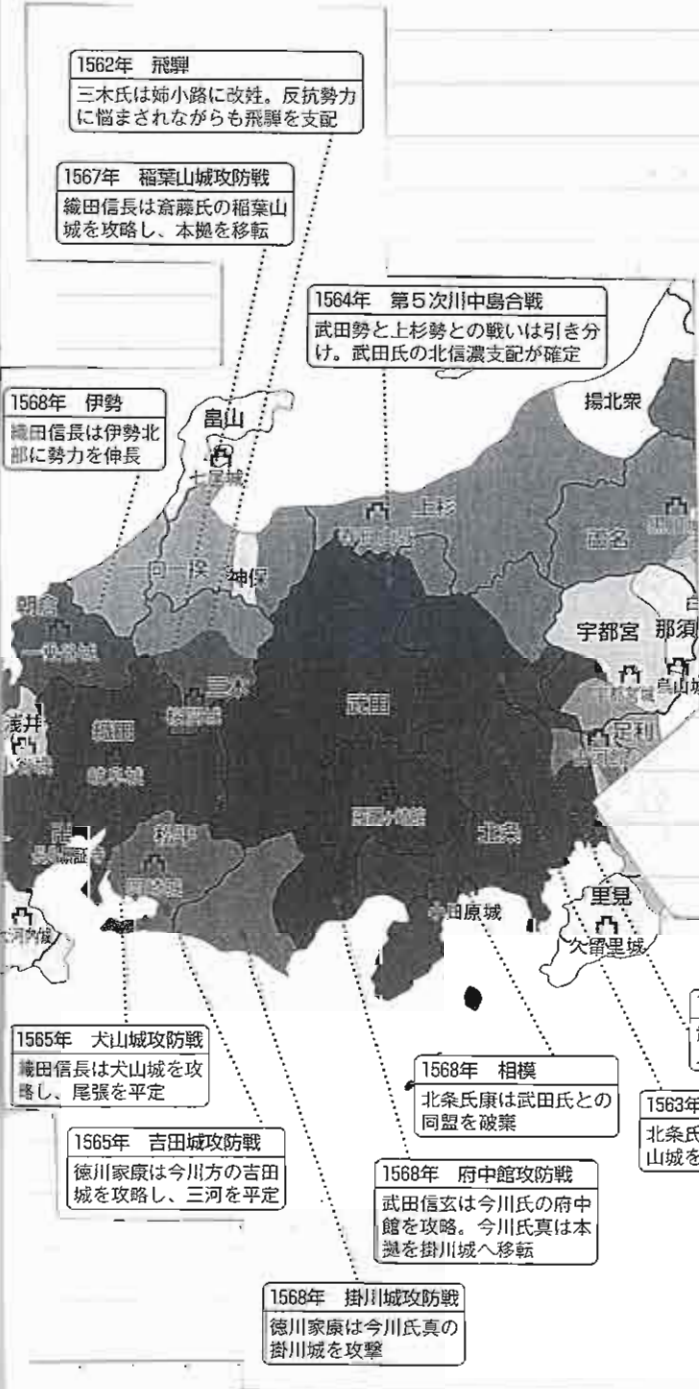


図2

1568年末の武田氏勢力範囲 (戦国大名変遷地図より)



図3

信玄の諏訪侵攻



図4

信玄の伊那侵攻

(googleマップより)



図5

信玄の伊那侵攻②



図6

信玄の佐久侵攻



図7

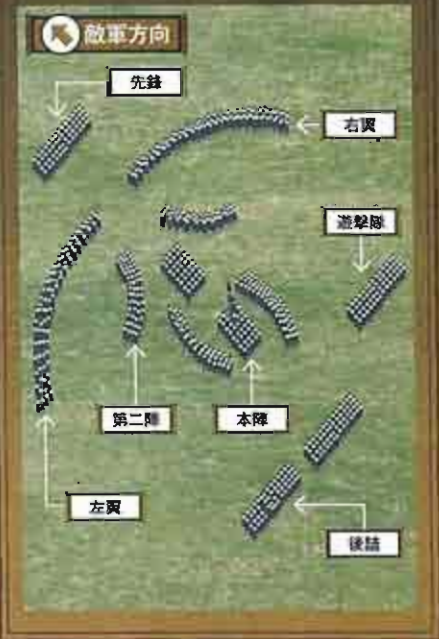
上田原の戦い



図8

上田原の戦い後の  
武田氏の勢力衰退

### 鶴翼の陣



#### 敵軍を包囲殲滅するための陣形

鶴が翼を広げせるように、本陣を中心として左右に広がった陣形。敵軍を中央に突撃させ、左右の羽をすばめて包囲するための陣形だった。野戦の基本陣形の一つで、中国では三国志時代から用いられていた陣形だ。

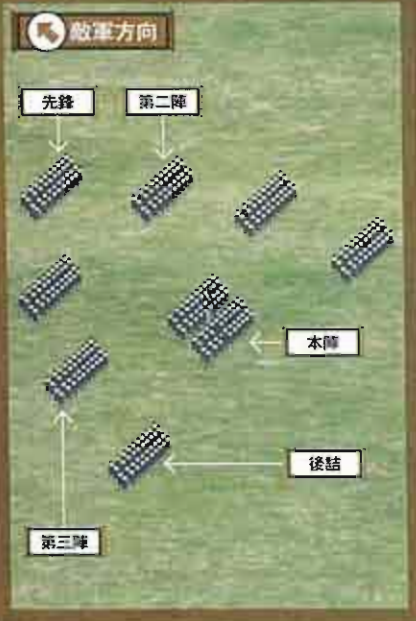
### 車掛かりの陣



#### 謙信が愛用した攻撃主体の陣

自軍の部隊を円形に配置し、車輪が回転するように動かしていく陣形。この陣形だと最外縁の部隊だけが敵軍にあたり、その部隊が外れると同時に新手の部隊が突入していく。攻撃力を発揮しやすい陣形で上杉謙信が第四次川中島合戦で用いた。

### 魚鱗の陣



#### 防御よりも攻撃に徹した陣形

魚のウロコに似ているところから魚鱗と名付けられたこの陣形は、敵陣の中央部分へ突入し本陣まで一気に崩してしまおうとする時に使われる。鶴翼の陣に対して魚鱗の陣を取る事が多く、この2つが最もよく出てくる陣形だった。

## 図9 戦国時代の野戦の陣形 (激闘川中島より)

野戦での陣形は、敵軍の進撃を待ち構えて一気に殲滅したい時、短期決戦で敵軍の総大将を討ち取りたい時、敵軍に包囲された時など、様々な場合によって変化する。  
 戦国大名たちは、中国から兵書を輸入し、軍法の研究にいそしんだ。信玄の「孫子」にあるように、そこから野戦に適した陣形が採用されていった。



図10

信玄の佐久侵攻②

— 砥石城 —

砥石城縄張図（上田市教育委員会提供） 砥石城は尾根上に榊形城・本城・砥石城が築かれているが、東側の斜面には幾つもの曲輪が形成されている。また、内小屋南端には堀・土塁が存在し、これより内側が城内と推定される。



砥石城は、北から榊形城、本城、砥石城の順に築かれ、米山城から形成されている。

周辺の尾根筋には飯縄城、花見城、柏山城などの支城もあり、大規模な城砦群を形成している。



四11

信玄の筑摩・守屋  
侵攻



四12

義清自落





図13

第一次川中島の戦いのきっかけ



図14

第一次川中島の戦い

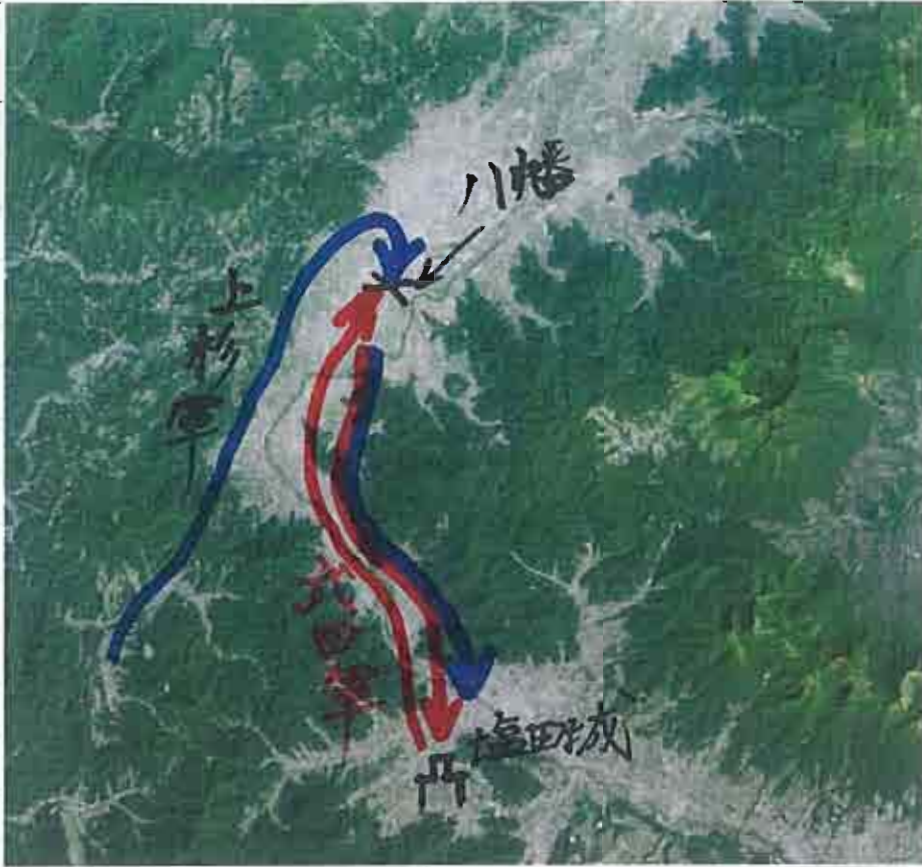


図15

第一次川中島の戦い



図16

甲駿相三国同盟



図17  
 第2次川中島の戦い

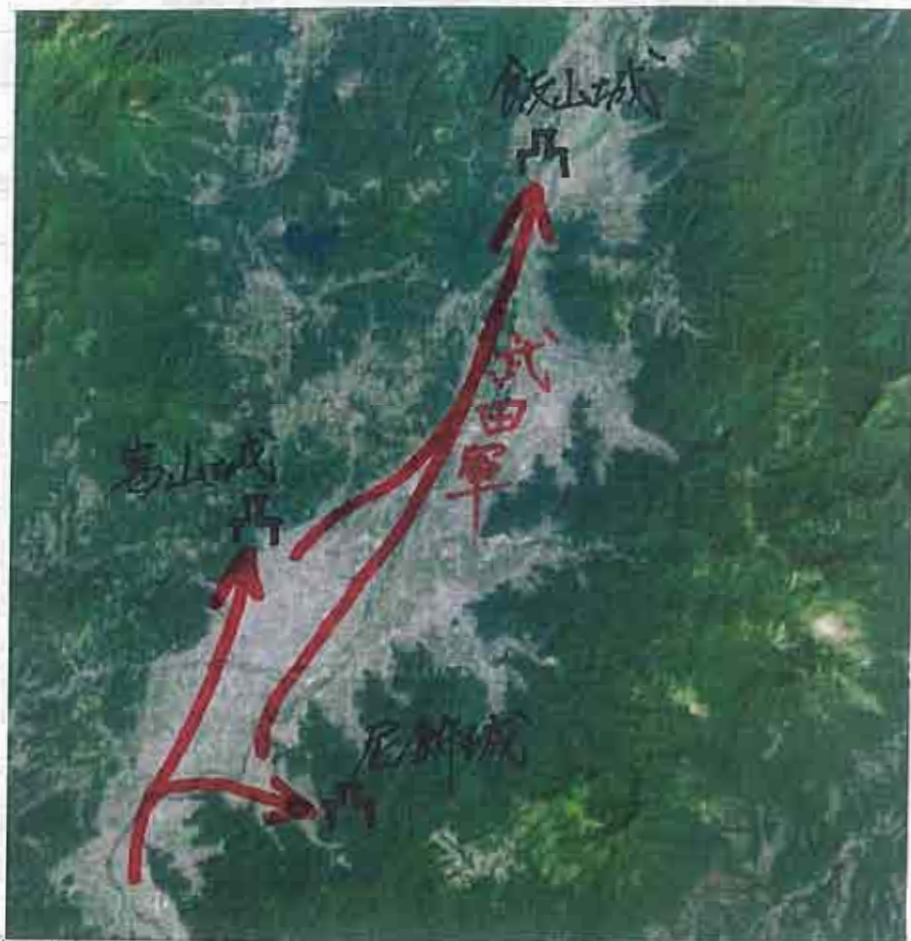


図18  
 第3次川中島の戦いのきっかけ



図19

第3次川中島の戦い



図20

越後隣国の情勢



図21 (戦国合戦の真実刊)  
啄木島戦法について



図22  
春日山, 甲府  
から川中島までの道のり



図23

謙信の作戦

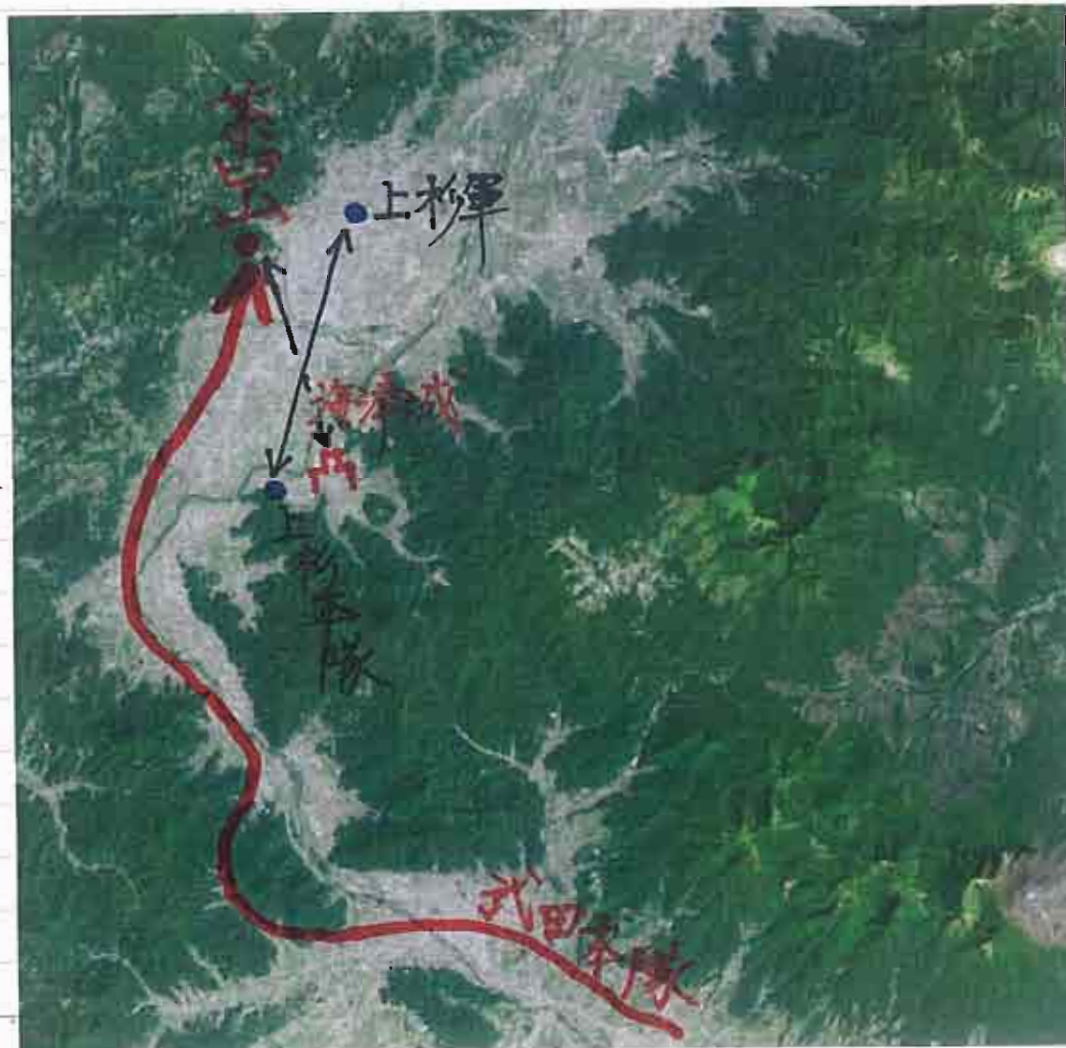


図24

信玄本隊の  
実際の行路

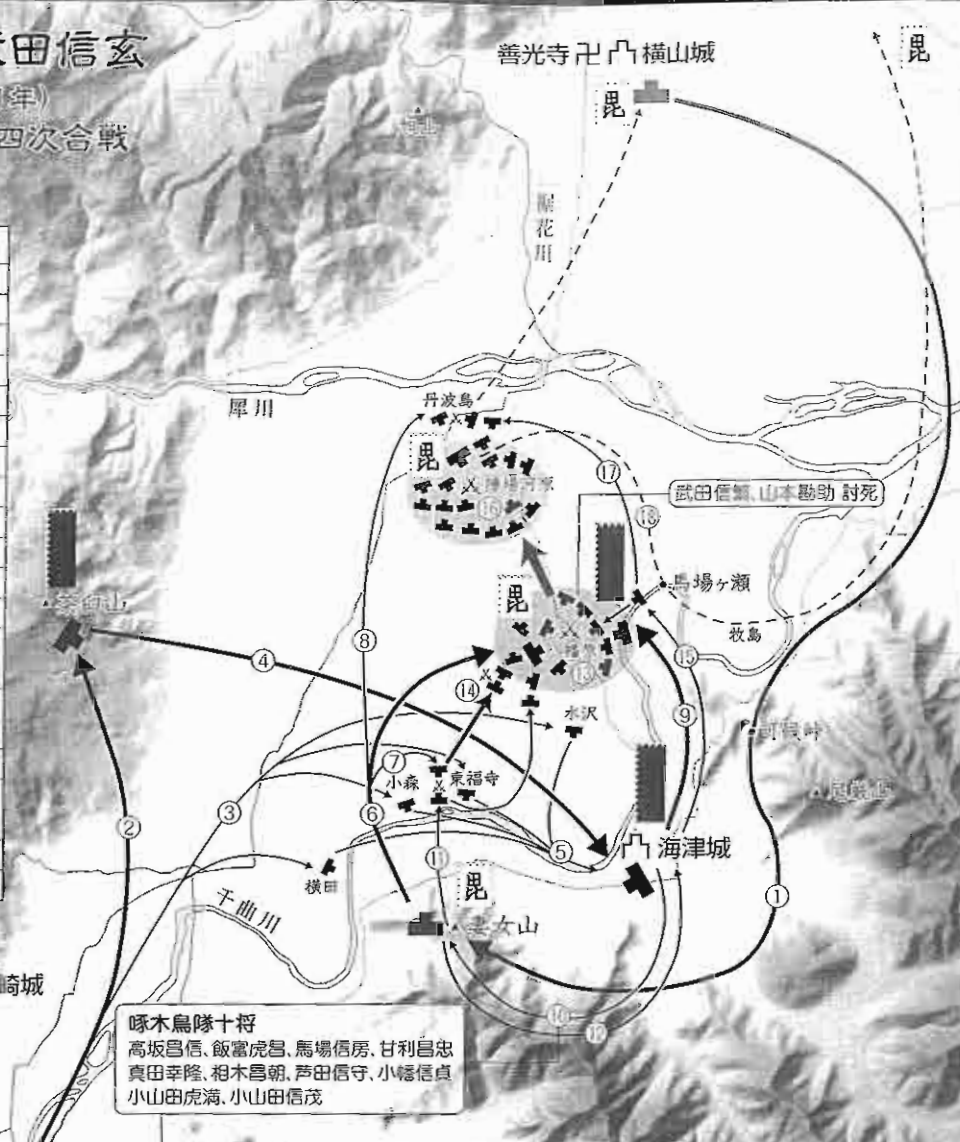
# 上杉謙信vs武田信玄

永禄4年(1561年)

## 川中島の戦い~第四次合戦

### 川中島の戦い~第四次合戦の推移

- ① 8月16日、上杉謙信、妻女山に着陣
- ② 8月24日、武田信玄、桑白山に着陣
- ③ 武田系舟隊、上杉軍の退路に布陣
- ④ 8月29日、武田信玄、海津城に進軍
- ⑤ 武田系舟隊も海津城に合流
- ⑥ 9月9日、上杉軍、夜襲を察知し下山
- ⑦ 甘粕隊、泉宿寺で啄木鳥隊に奮える
- ⑧ 翌日、援軍として丹波島に進軍
- ⑨ 9月10日、武田信玄、八幡原に進軍
- ⑩ 啄木鳥隊の奇襲、看破され失敗
- ⑪ 藤木島隊、進軍するも甘粕隊と交戦
- ⑫ 高坂隊、奇襲に備え海津城に戻る
- ⑬ 上杉軍と武田軍の本隊決戦始まるも、先に布陣した上杉軍が圧倒的優勢
- ⑭ 藤木島隊、甘粕隊と交戦しながらも、八幡原に押出し上杉軍の背後を突く
- ⑮ 高坂隊、援軍として八幡原に進軍
- ⑯ 上杉軍、徐々に武田軍に押込まれ、海津河原まで退却
- ⑰ 高坂分隊、上杉軍の背後へ援軍を突く
- ⑱ 上杉謙信、退却



**啄木鳥隊十将**  
 高坂昌信、飯富虎昌、馬場信房、甘利昌忠  
 真田幸隆、相木昌朝、声田信守、小幡信貞  
 小山田虎満、小山田信茂

図25 第4次川中島の戦いの推移

(地図が知る戦国より)



図26 これまで考えられてきた武田別動隊の行路  
 (国土地理院 25000分の地形図)



図27 僕の考える武田別動隊の行路  
 (同上)





左写真、上から本丸石垣、本丸枡形虎口  
上の写真は、飯山城本丸跡付近のようす  
(<http://www.furin-kazan.jp/nagano/index.php> より)

図28 飯山城

春日山城から北へへの道



春日山から川中島  
までの道は2つある。

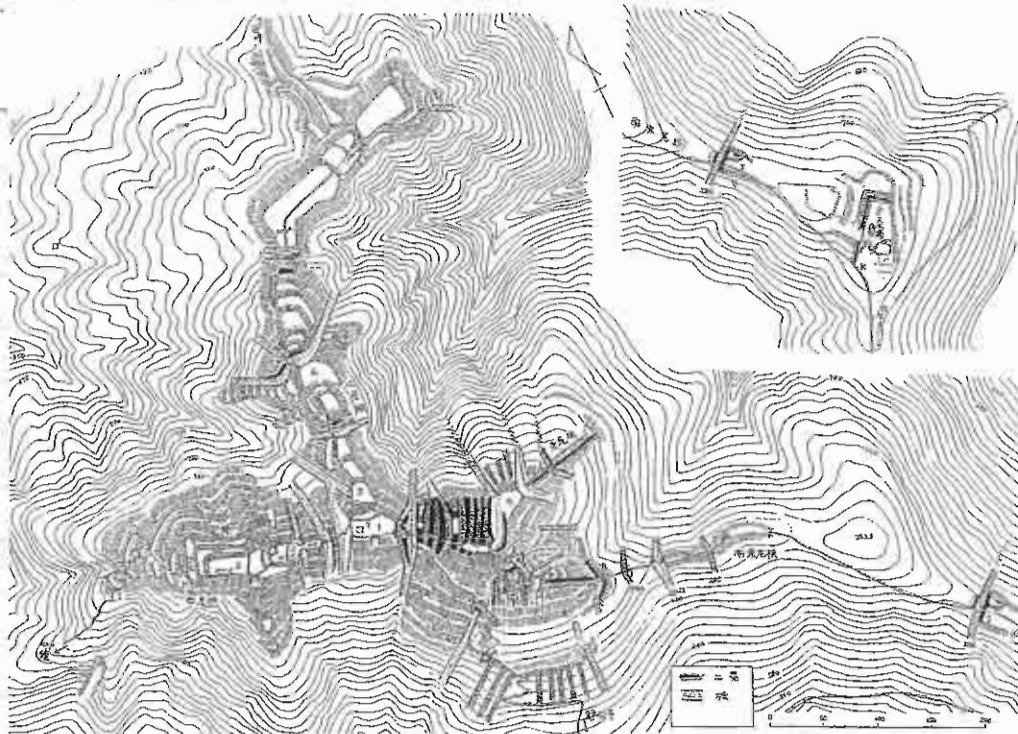
・北国街道沿い  
西側の道が関山  
口を通る。

・谷戸街道沿い  
東側の道が飯山  
口を通る。謙り道  
とも呼ばれる。



(戦国合戦の  
真実より)

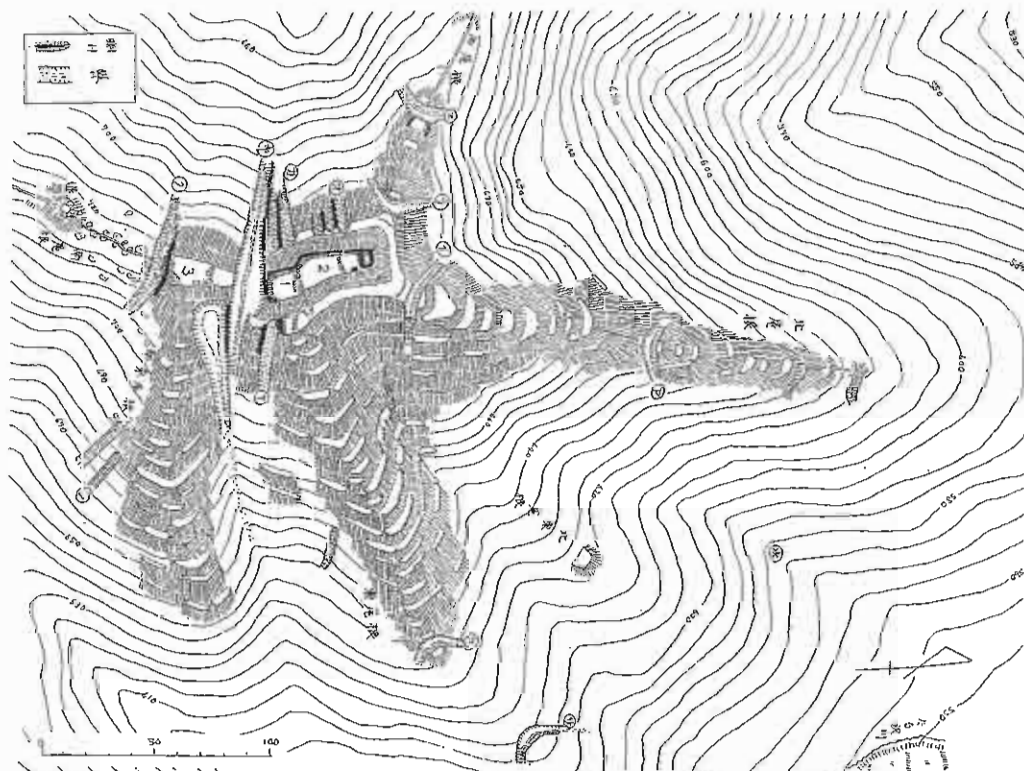
図29 春日山から川中  
島への2ルート



葛山城縄張図 (宮坂武男作図) 葛山城は、本曲輪 (主郭) を中心にして北尾根・西尾根・東尾根・南東尾根筋に、曲輪・帯曲輪・腰曲輪・畝状堅堀・堀切などが構築されている。

図30

葛山城縄張図



月生城縄張図 (宮坂武男作図) 月生城には、本曲輪・二の曲輪・三の曲輪・多数の笥曲輪・堅堀・横堀などによって構築されている。

図30

月生城縄張図

(信州の古城より)

牧之島城縄張図（宮坂武男作図）  
 牧之島城跡は中世の甲州流築城様式を見るのに最適な城であり、本丸・二の丸跡、堀・土塁・門跡などの形がよく残っている。

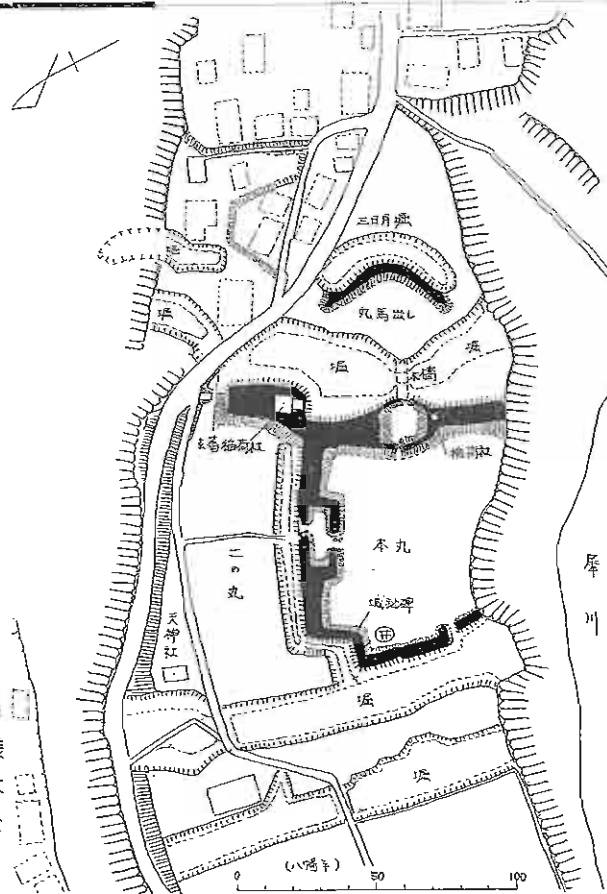
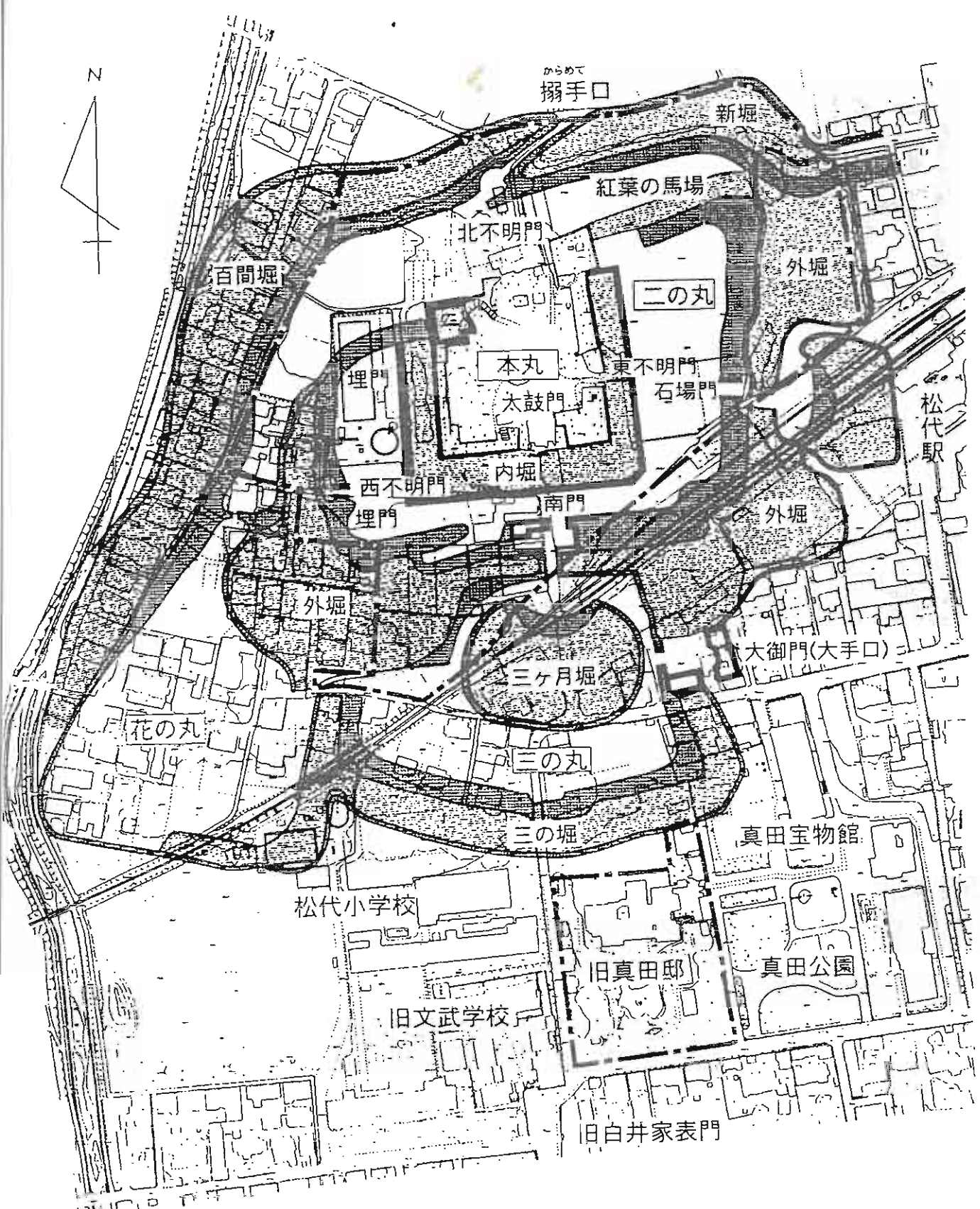


図31 牧之島城縄張図  
 (甲州の古城より)



長野市・史跡松代城跡整備計画書縄張想定図より

四三1 海津城縄張図

# 卷末資料

一、川中島合戦図屏風

一、信濃国の城分布図

# 川中島合戦図屏風



川中島合戦図屏風右隻



川中島合戦図屏風左隻

撮影；長野市立博物館

右隻① 高坂弾正

『甲陽軍鑑』の作者とも想定される高坂弾正は馬上で勇ましく戦う姿で登場している。



右隻② 一騎討ち

本陣とは離れた位置での謙信と信玄の一騎討ちはともに馬上で戦われている。



右隻③ 足軽の突撃

足軽隊は長槍と太刀を持った兵が混在して、集団で突撃している。



右隻④ 騎馬隊の突撃

騎馬隊の突撃は数騎程度の小さな集団で、このように騎馬武者同士が戦うシーンは珍しい。



左隻⑤ 武田信玄本陣

防備が固められた武田信玄の本陣だが、すでに馬防柵の一部は押し倒されている。上杉軍の突入に本陣内の旗本たちは浮き足立ち、今にも逃走してしまいそうな雰囲気を与えている。



### 左隻⑦ 長槍隊

長槍は振り叩くのではなく腰だめにして、突き出すように使われていたことが窺える。



### 左隻⑥ 上杉謙信本陣

旗本衆を引き連れて騎馬で突撃する謙信の姿は史実と想定される姿だった。



### 左隻⑩ 妻女山

上杉謙信の睡っていた妻女山の中には武田軍の兵士しかいない状態で描かれている。



### 左隻⑨ 母衣武者

母衣を担いだ武者はくわすかしが描かれていないが、侍大將クラスに多いようだ。



### 左隻⑧ 直江実綱

上杉軍の中で最も前線で戦っているのは騎馬を操る直江実綱の姿だった。

～武田家の家臣たち～



#### 山本勘助

(武田二十四将図より)  
所蔵/長野市立博物館

武田家の軍師として創業期の信玄を支えた。第四次川中島合戦のキツキ戦法は勘助の献策だといわれる。



#### 高坂弾正

(武田二十四将図より)  
所蔵/長野市立博物館

北信濃侵攻の最前線で戦い、川中島合戦の全期間を北信濃に留まり続け、海津城が完成後は守將を務めた。



#### 山県昌景

(武田二十四将図より)  
所蔵/長野市立博物館

武田四天王の随一とも目される知略と軍略に優れた武将。信玄の死後も武田勝頼を支え続けた。



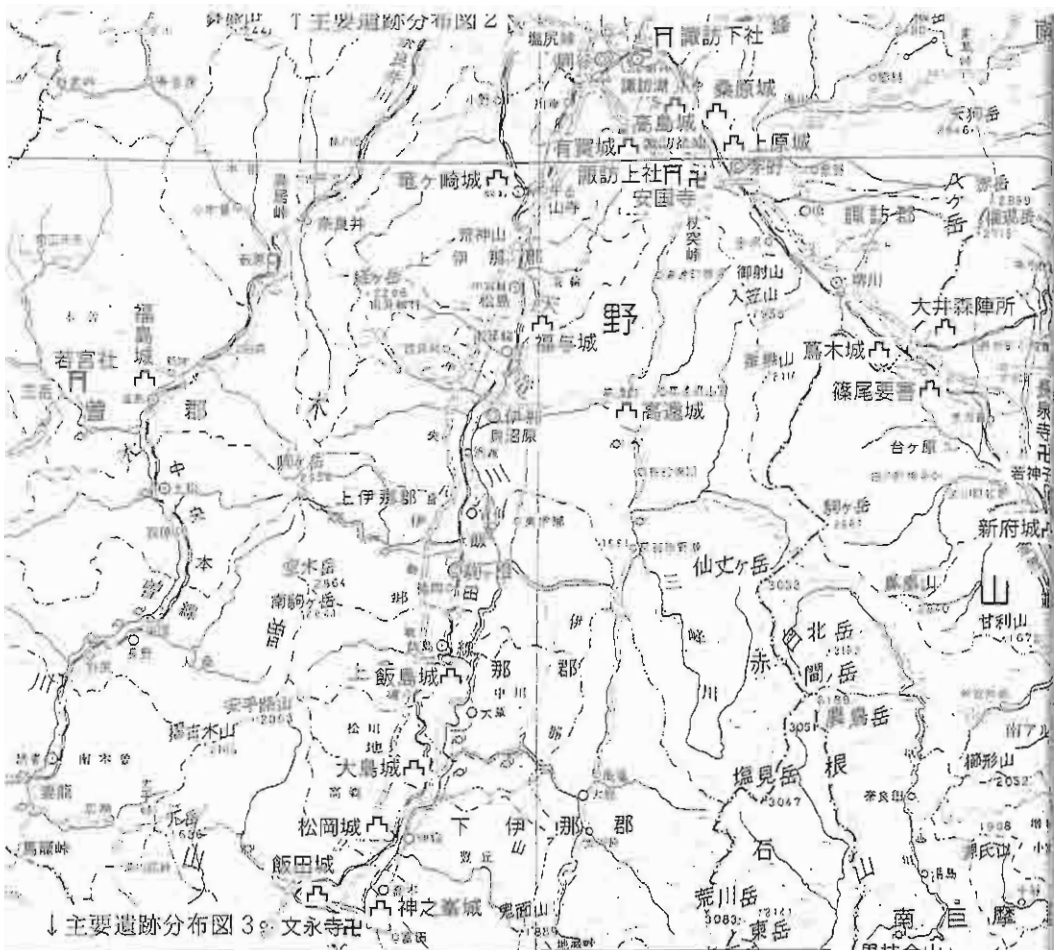
#### 内藤昌豊

(武田二十四将図より)  
所蔵/長野市立博物館

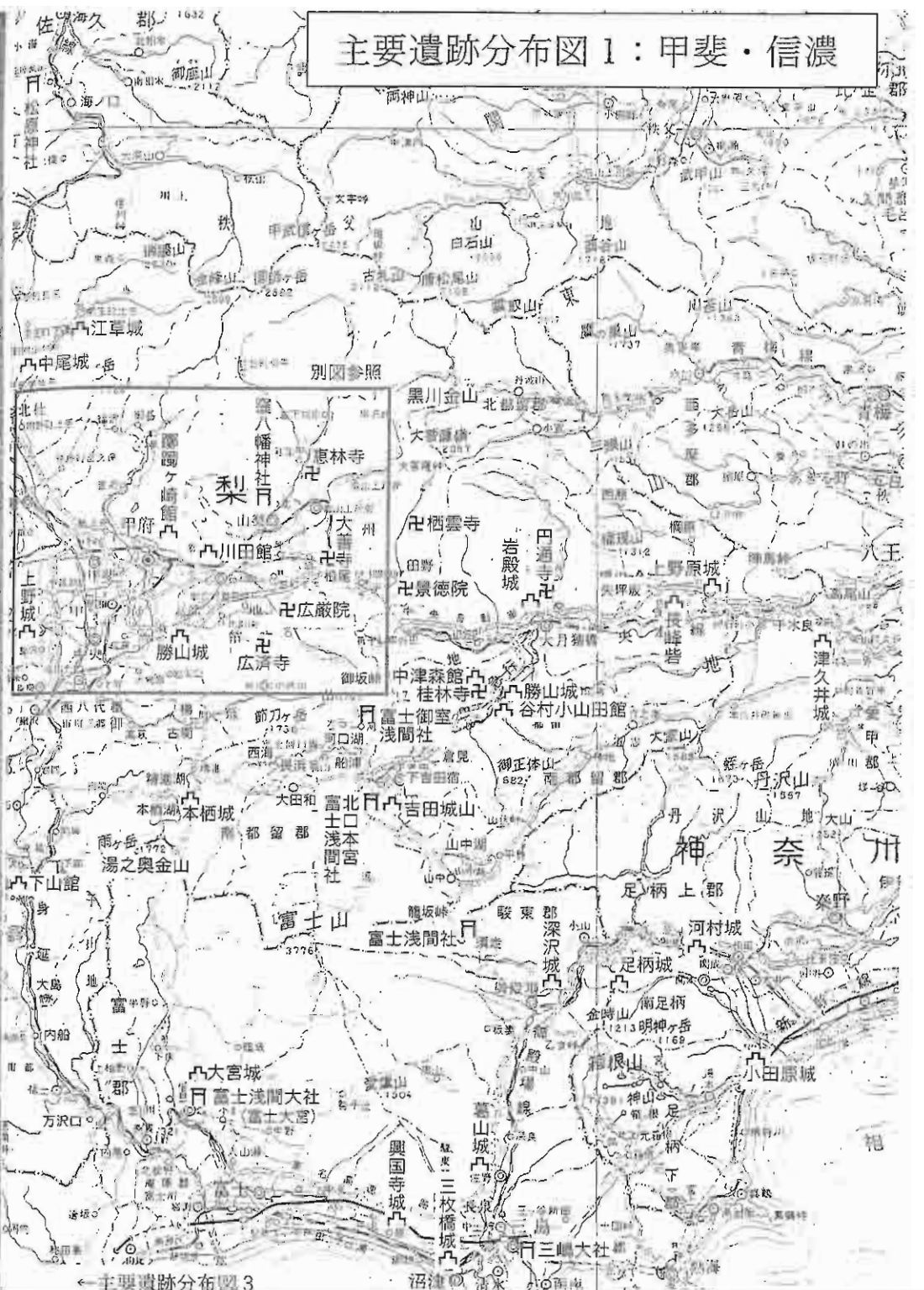
山県政景、馬場信春、高坂弾正と並ぶ武田四天王の1人。信濃侵攻時には松本方面を担当していた。

(激闘川中島より)





主要遺跡分布図1：甲斐・信濃



↓主要遺跡分布図3：文永寺



←主要遺跡分布図3

# 主要遺跡分布図2：信濃・上野



↓ 主要遺跡分布図1